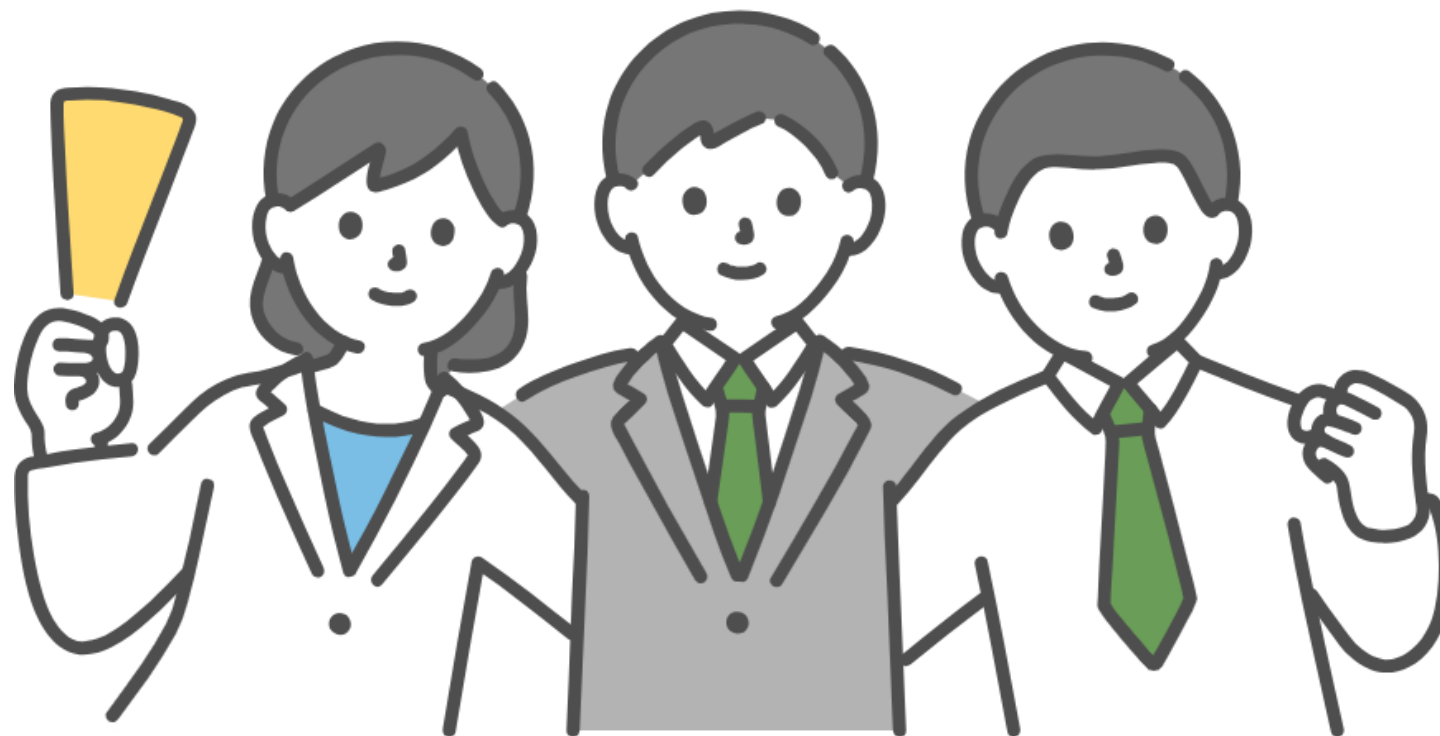


令和7年度改善改革運動 「CoCoからチャレンジ・こがねい」報告書



小金井市企画財政部行政経営担当
令和8年3月

目次

1 はじめに

- (1) 「改善取組」とは
- (2) 運動の目的

2 令和7年度のCoCoチャレについて

- (1) 実施フローと募集・選考経過
- (2) 選考方法
- (3) 選考結果
- (4) 報告一覧

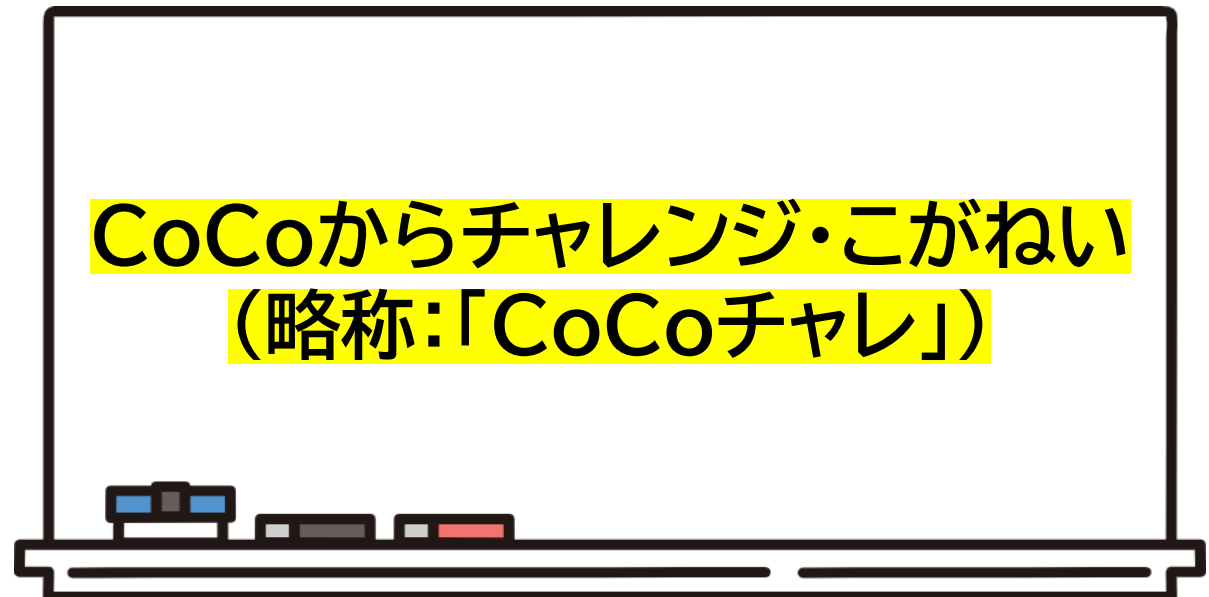
3 入賞取組等について

- (1) 令和7年度入賞取組

1 はじめに

(1) 「改善取組」とは

- 市の行財政改革の指針として策定した「行財政改革プラン2020」(計画期間:平成29年度～令和2年度)において、「職員の意識改革」が重点取組の一つとして位置付けられ、その具体的な取組として改善改革運動の実施が盛り込まれました。
- その後「行財政改革2025」(計画期間:令和4年度～令和7年度)においても、優先的取組の一つとして位置付け、令和4年度まで、改善改革運動を実施しました。
- 親しみを持って参加しやすい仕組みにしたいという思いから、令和3年度に庁内で愛称を募集し、職員投票の結果、決定しました。



1 はじめに

(2) 運動の目的



職員一人ひとりが日々の業務を見直し、自ら積極的に課題解決に取り組む意識づくり

課題解決に携わった経験を職場や庁内で共有し、誰もが改善に前向きになれる職場風土を作ること

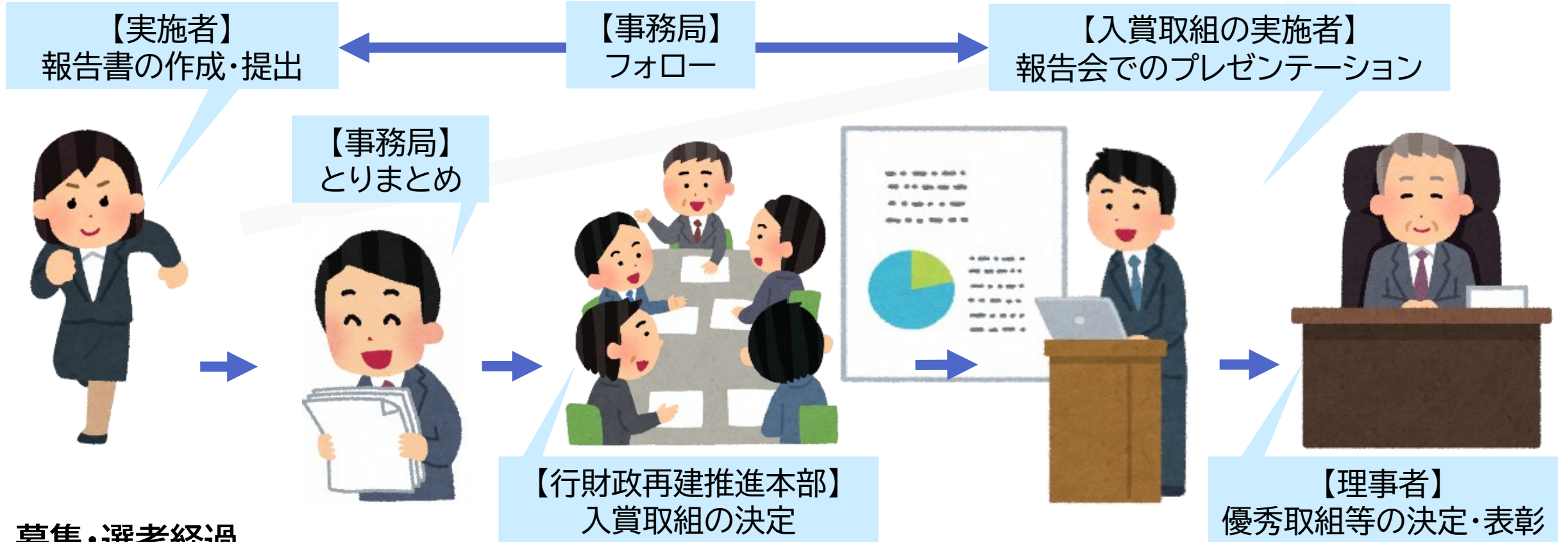
改善の結果として市民サービスの更なる向上、業務効率化等を図ること

令和6年度からは、上記3つに加え、市長等理事者に向けたプレゼンの実施を評価の過程に加えることで、取組や報告を通じた「職員の能力向上」を目的に追加しました。

2 令和7年度のCoCoチャレについて

(1) 実施フローと募集・選考経過

改善改革運動実施フロー



募集・選考経過

4月2日	8月20日	9月2日	10月31日	11月18日	12月3日	1月20日	1月27日	3月19日
募集開始	報告促進 庁内広報	報告促進 動画公開	報告書 提出期限	入賞取組 審査開始	入賞取組 決定通知	改善取組 報告会	優秀取組等 決定通知	表彰式 HP公開

2 令和7年度のCoCoチャレについて

(2) 選考方法



入賞取組

報告された取組の改善効果等を行財政再建推進本部の部長職者が評価し、5件程度を【入賞取組】として決定します。



優秀取組等

改善取組報告会での報告及び質疑等を受けて委員が評価した結果を踏まえて、選考委員会に於いて最終的な得点を決定し、得点の高い順に【最優秀取組】、【優秀取組】、【奨励取組】とします。



最多取組

報告された改善取組が最も多い課について【最多取組】として認定します。








特別賞

上記とは別に、選考委員会が特に評価すべきとした取組を別途【特別賞】として表彰することができるものとします。

2 令和7年度のCoCoチャレについて

(3) 選考結果

報告数:28取組 (13課 延べ123人)

 最優秀取組	市民税課	待たない、待たせない、すぐできる市民税申告相談予約
 優秀取組	指導室	まなびポケットを活用した働き方改革及び保護者への 情報伝達の確実性・即時性の向上
 奨励取組	環境政策課	小金井みんなの公園プロジェクト「play here」
 最多取組	市民課	6.18取組 (他課との共同実施取組按分を含む。)
 展開推奨モデル取組	企画政策課	休日開庁窓口の縮小

2 令和7年度のCoCoチャレについて

(4) 報告一覧

No.	課名	取組名
企画財政部		
1	企画政策課	庁内調査の回答先を全庁共通フォルダから回覧レポートへ
2	企画政策課	女性総合相談予約受付のオンライン化
3	企画政策課	休日開庁窓口の縮小
総務部		
4	総務課	不足する国勢調査用品の追加依頼にLoGoフォームを活用
5	地域安全課	係名刺の導入
6	地域安全課	タイムカード氏名欄の手差し印刷
7	管財課	リース車両の導入
8	管財課	庁舎から出る産業廃棄物の集約
9	管財課	庁舎管理規則の制定
市民部		
10	市民課	住居表示における枝番号の付定基準の改正
11	市民課	マイナンバーカード出張交付窓口の開設
12	市民課	オンライン申請・オンライン決済の導入
13	市民課	申請書作成支援システム(書かない窓口)の導入
14	市民課	コンビニ10円キャンペーンの実施
15	市民課	市民課窓口委託の拡充

2 令和7年度のCoCoチャレについて

(4) 報告一覧

No.	課名	取組名
市民部		
16	市民税課	「集中環境で、入力業務に新たな効率を。」
17	市民税課	申請完了、あなたのスマホひとつで～市民税申告～
18	市民税課	待たない、待たせない、すぐできる市民税申告相談予約
19	資産税課	Outlookによる予定表のグループ管理
環境部		
20	環境政策課	小金井みんなの公園プロジェクト「play here」
21	ごみ対策課	くるカメくんInstagramアカウントの開設について
福祉保健部		
22	地域福祉課	給付金支給事務における電子申請の導入
23	介護福祉課	小金井市介護保険サービス事業所一覧(拡充版)の作成
24	介護福祉課	「主任ケアマネによるケアプランの点検」の開始
25	介護福祉課	縦覧点検(6帳票)の検証
都市整備部		
26	都市計画課	用途地域等のGISシステム構築
学校教育部		
27	指導室	まなびポケットを活用した働き方改革及び保護者への情報伝達の確実性・即時性の向上
28	指導室	貸切バス利用形態の見直しによる林間学校の充実化

3 入賞取組等について

(1) 令和7年度入賞取組

1	取組名	休日開庁窓口の縮小
	実施部署	企画政策課
2	取組名	待たない、待たせない、すぐできる市民税申告相談予約
	実施部署	市民税課
3	取組名	小金井みんなの公園プロジェクト「play here」
	実施部署	環境政策課
4	取組名	給付金支給事務における電子申請の導入
	実施部署	地域福祉課
5	取組名	まなびポケットを活用した働き方改革及び保護者への情報伝達の確実性・即時性の向上
	実施部署	指導室
6	取組名	貸切バス利用形態の見直しによる林間学校の充実化
	実施部署	指導室

※次頁以降は報告資料の概要です。詳細は各部署にお問い合わせください。

休日開庁窓口の縮小

市民ニーズの変化をとらえた合理的な判断であったとしても、既存事業の縮小を実現するのは困難であるとの認識であったが、担当部署だけでなく理事者等の協力も得ながら進められたこと、縮小すべき理由を積み上げEBPMを実践できたこと、改善後には多くの関係者から感謝の言葉をいただいたことなど、今後の自信になる取組ができた。

実施者のコメント



改善効果

業務の効率化・経費の削減及び歳入の増加・その他行政運営上有益であるもの

改善前 (before)

- ・20年前に開始され、平日に来庁できない方にとってはニーズがあった。
- ↓↓↓
- ・マイナンバーカードの交付率上昇
- ・コンビニエンスストアでの証明書交付サービスの利用が急増
- ↓↓↓
- ・休日窓口での取り扱い件数はピーク時の半分以下まで減少
- ・にもかかわらず、十分な検証が行われていないまま、継続していた。

改善後 (after)

- 市民課・保険年金課：毎週
 - 子育て支援課・納税課：月1回
 - ↓↓↓
 - 市民課・保険年金課：月2回
 - 子育て支援課：月1回
 - 納税課：不定期
- フロアマネージャーとして配置していた課長職者2名の出勤を廃止

効果 (effect)

窓口部署においては、この間の代替サービスの拡充によりもともとニーズが低下していたため、開庁日数の減による市民サービスへの影響はあまり感じられず、代休の取得が減ったため平日の人員体制が安定するなど働き方改革への効果も得られた。行政経営担当においては、フロアマネージャーのシフト管理及び備品の準備等の業務を廃止し、業務の効率化が促進された。

待たない、待たせない、すぐできる市民税申告相談予約

超繁忙期に市民税申告会場を開設して、相談ブースを設置・相談対応をしている。
 相談対応により、確定申告等各種入力業務が滞る→時間外で入力業務をする→入力業務の進捗・効率が悪い。
 相談業務は、市民サービスとして有意義なものだが、どうにか相談時間を縮減することができないか研究していた。

実施者のコメント



改善効果 市民サービスの向上・業務の効率化

改善前 (before)

市民：順番が来るまで長時間待ち（何時になるかわからない）、実際の相談は5分から15分程度。会場から溢れ長蛇の列。

職員：行列解消することに奮闘。他の入力業務等ができない。夕方夜から入力業務を進めていた。
 来庁人数は、その日の天候等にも影響を受け、相談受付人数をコントロールできない。

改善後 (after)

市民：オンラインと電話で予約。しっかり15分相談時間を取れる。予約時間に来れば、待たずに、ストレスフリー。

職員：予約人数が決まっており、職員を充てるスケジュールが可能。長蛇の列を見ながらの相談・入力の回避。
 日中にその他の入力業務等ができる、業務効率アップ、時間外勤務削減。

効果 (effect)

市民：アンケート結果「待ち時間なく快適」
 職員：業務進捗が圧倒的にアップ
 職員疲労度が軽減、別業務に注力できる。

時間外実績

R6 1月～12月 計4,281h
 R7 1月～12月 計2,730h
△1,551時間（前年比63%）

※正規職員のみ

小金井みんなの公園プロジェクト「play here」

公園を拠点とした障害者理解の促進（栗山公園のイベントでは500名を超える来園者）

東京都の補助金（10/10・144,473,670円）を活用し、障害のあるなしに関わらず、公園をもっと自由に遊べる場所にするために、子どもや当事者の声を丁寧に聞いて、地域に発信することで、障害者の理解促進を進めている。

継続した会話機会（毎回20名程度参加）

令和7年8月から月に1回程度、勉強会を交えた会話の機会をつくり、公園での課題共有やイベント開催に向けた企画調整を行っている。

メディアからも注目

東京新聞、Eテレ、東洋経済新報社、都政新報、AERA、ポッドキャストなどの取材依頼を受けている。

実施者のコメント



改善効果 市民サービスの向上・経費の削減及び歳入の増加・その他行政運営上有益であるもの

改善前（before）

○障害のある子どもが公園に行けない

公園は誰にでも開かれている場所であるにもかかわらず、障害のある子どもを育てる保護者は、理解のない人からの白い目で心の健康を損い、公園には行けなかった。

○障害者との接し方が分からない

障害がある方とどう接していいか、わからないという子どもや地域の方が多かった。

改善後（after）

●公園に居ていいんだと思えた

障害のある子どもを育てる保護者や支援者などのロングインタビューを情報発信したり、障害のあるなしに関わらずみんなで過ごすイベントを開催することで、非常に多くの障害がある子どもと保護者の笑顔を見ることができた。

●自分たちも何か協力したい

小学校での出張授業の開催により、公園で困っている人がいたら、声を掛けたい、助けたいと言ってくれるようになり、障がい者に対する声のかけ方や接し方を学ぶことができ、障害者の理解を徐々に深めることができた。

効果（effect）

◎心の病を克服できた

会議に参加してくれた障害のある子どもを育てる保護者が心の健康を損なっていたが、プロジェクトのおかげで元気に外出できるようになった。

◎シティブランディングの向上

新聞やテレビなどのメディアで注目を受け、取材依頼が多く、シティブランディング効果も出てきている。また、職員採用面接でも取組に関わりたいという志願者が3名もいた。

◎社会学技術学院との連携協定の締結

給付金支給事務における電子申請の導入

申請者の負担軽減を目的に、従来は紙でのみ行われていた給付金申請手続きに、スマートフォンやPCから申請できる電子申請を導入しました。必要項目を選択し入力するだけで申請が完了するほか、通帳や本人確認書類の写しの提出もスマートフォン等で撮影した画像を添付することで可能となりました。また、従来は個別連絡後に書類を送付していた口座変更や受給辞退の手続きについても、電子申請で簡単に完了するよう改善しました。

実施者のコメント



改善効果

市民サービスの向上・業務の効率化・経費の削減及び歳入の増加

改善前 (before)

従来の給付金申請では、申請者は手書きで書類を作成し、来庁または郵送で申請書類を提出する必要があった。その結果、数多く生じた記入漏れや誤字脱字、添付書類の不備等に対して、申請書の記載内容の確認や修正・追加提出対応に多くの時間が費やされていた。

改善後 (after)

電子申請の導入により、スマホやPCを使ったオンライン申請が可能となり、24時間いつでもどこからでも申請が出来るようになった。
 ▶ また、エラーチェック機能により、記入漏れやデータの添付漏れ等を自動的に指摘し、申請段階でエラーを最小限に抑えることが出来るようになった。

効果 (effect)

【物価高騰対策給付金事業結果】
 総手続件数:772件
うち、電子申請:275件(35.6%)
 【効果】
 ▶ ・来庁にかかる時間や窓口での待ち時間等が不要になった。
 ・申請書への手書き記入や添付書類のコピー、郵送といった物理的な手間が大幅に削減。

まなびポケットを活用した働き方改革及び保護者への情報伝達の確実性・即時性の向上

働き方改革の一環として教育クラウドプラットフォームサービス「まなびポケット」保護者（専用）アプリの保護者連絡機能を導入し、情報発信プロセスの改善を図りました。
本取組により、情報伝達経路の簡素化と業務効率化が進み、働き方改革の推進と学校運営の効率化が図られた。

実施者のコメント



改善効果 業務の効率化・市民サービスの向上

改善前 (before)

- ①情報は「市教育委員会」から直接保護者へ配信ではなく、「学校」で管理職が他校と配信方針について情報交換・検討を行ってから「保護者」へ配信を行っており、情報が保護者に届くまでの過程が複雑化していました。
- ②出欠確認は子どもの出欠状況の把握が煩雑になり、共有ミスや不必要な対応、保護者からの不信感を招く可能性もありました。

改善後 (after)

- ①情報の配信が市教育委員会から直接保護者へ配信することが可能となり、過程が単純化しました。
- ②出欠確認は、どの職員でもいつでもアプリ上で出欠状況を把握できるようになりました。また保護者はアプリ上で、手軽に出欠連絡を行えるようになりました。

効果 (effect)

- ・教職員の負担軽減、本来注力すべき業務に集中することができる
- ・保護者への情報伝達の確実性・即時性の向上
- ・信頼関係の強化

貸切バス利用形態の見直しによる林間学校の充実化

1千万円超の貸切バス契約。料金高騰で、全市的に入札不調が増加
予算内で何とか一発で契約できるようにバス会社担当者の本音を探ったところ、意外な部分でメリットが
発生。そのメリットは、実に大きいものでした。

実施者のコメント



【学校行事／林間学校／小学6年生／夏休み／2泊3日／清里】



改善効果

市民サービスの向上

改善前 (before)

- ① 児童1,000名が乗るバスを指導室がチャーター（R7は34台×往復）
- ② チャーター区間は小金井－清里間の単純往復（片道4時間）のみ
- ③ 途中の施設等でバスを長時間待たせることは不可。山の中腹でバス下車後、JR最高地点等を經由しながら、ハイキングで宿泊地へ向かう学校がほとんどであった（これはこれで、とても素敵な活動）。

改善後 (after)

- ① R6から契約内容を“予算範囲内”で見直して、チャーター内容を変更。小金井－清里の片道は従来どおり4時間とし、残りの片道は、4時間増の8時間とした。
- ② R6は見直し初年度で効果は限定的だったが、R7は、見直し初年度における各校の取組実績が全校的に共有され、改善効果が本格化

効果 (effect)

- ① ハイキングの一部がバス移動に変わり、2日目の森林体験に向けて、十分な体力を残せるように
- ② 行程の自由度が増すことが教員の企画力を刺激。議論が創造的に
- ③ 林間学校が大きく変わった。欲張った行程、例えば、清泉寮でゆっくり遊んだり、ほうとう作りや陶芸作りを体験したり、甲府の考古博物館を見学できるなど、新たな取組が見られるように